

パレスチナにおける安全な母性

母子保健サービスへのアクセス

パレスチナでは、打ち続く紛争、地域の閉鎖によって、辺境地における母子保健サービスを含め、リプロダクティブ・ヘルスへのアクセスは、政治現況に大きく影響されている。また、リプロダクティブ・ヘルスサービスに対する需要と提供状況についても、社会経済レベル、ライフスタイル、パレスチナにおける女性の地位などによって影響される。例えば、ガザ地区の女性の貧困率は、西岸地区の二倍以上である（PCBS, 2011）。

パレスチナ住民の約40%が生殖可能年齢の女性または5歳未満の子どもであるこ

とから、IPPFパレスチナ（PFPPA）は辺境地の住民のための母子保健サービスの強化をIPPF日本信託基金のプロジェクトの優先事項と位置づけた。その実現のために、IPPFパレスチナ（PFPPA）は、STI対策、産前ケア、HIV検査と必要に応じて保健省と地元のNGOへの取次ぎ紹介（リファラル）を含む母子保健サービスを組み入れることで、女性たちに現在提供されているリプロダクティブ・ヘルスパッケージを強化した。また、子どもの栄養不良対策として、地域を拠点とした子どものケアや小規模な栄養補給プログラムも開発した。

ヘルスサービスを受けるための地域のエンパワーメント

IPPFパレスチナ（PFPPA）は、リプロダクティブ・ヘルス／母子保健サービスの改善と、特にヘブロン、ハルホウル、トゥルカレム、ガザ地区などの辺境地に住む人々の知識の向上を目指し、プロジェクトを計画した。

このプロジェクトを実施するにあたり、妊婦が継続的なケアを受けることができるように用いられた重要な手段の一つは、国際協力機構（JICA）との連携による母子健康手帳である。この手帳により、ヘルスケア・ワーカーは、母子の既往歴を知ることができ、効果的かつ効率のよい取次ぎができ、既往歴をとりこぼすことなく保管できる。その他には、妊娠の経過、出産、家族計画、子どものケア、リプロダクティブ・ヘルス、栄養など、健康についての知識を得るための情報が記載されている。

このプロジェクトでは男性の参加も呼びかけられた。男性参加は、男性が支配的な社会の中で、特に「女性に関する問題」として従来考えられていた事柄に関連するセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルス／ライツサービスへの地域住民の態度や知識を変え、理解を深めて利用を増やすために欠かせないからである。

また地域の動員のために、若者有志から成る劇団が、セクシュアル／リプロダクティブ・ヘルス／ライツのメッセージを伝え、プロジェクトの対象となる人々に好評を得た。この公演は観客の知識や認識を向上するように制作され、役者やプロジェクトスタッフとのディスカッションに参加する機会も提供した。



パレスチナ自治区
人口：442万549人
（2013年、PCBS）
平均寿命男/女：71/74歳
（保健省年次報告書2011年）
合計特殊出生率：4.5（2010年、国連児童基金UNICEF）
5歳未満児死亡率
（出生1000対）：
25.1（2010年、国連人道問題調整部UNOCHA）

プロジェクト概況

実施機関：
IPPFパレスチナ（PFPPA）
支援機関：
IPPF日本HIV/リプロダクティブ・ヘルス信託基金

実施場所：
ヘブロン、ハルホウル、
トゥルカレム、ガザ地区

目的：
対象地域でリプロダクティブ・ヘルスと母子保健の知識とサービスを改善する
期間：2010-2013年

プロジェクト・サービス統計

地域を拠点とした子どものケアと微量栄養素補給プログラムの利用者女性
1,700人、子ども2,700人
巡回サービス裨益者数
4,700人
避妊と家族計画サービス提供件数7,856件
性感感染症（STI）関連サービス提供件数3,180件
配布したコンドーム数
9,207個
HIV関連カウンセリング実施件数3,905件
母子感染予防カウンセリング実施件数1,652件
母子保健、産前・後ケア関連サービス提供件数6,088件

「うちのコミュニティでリプロダクティブ・ヘルスに関する意識を高めるには、コミュニティ人口の少なくとも半分を占める村の男性が参加して、なんらかの役割を果たすことが欠かせない」

村落自治体代表からのプロジェクトへの意見



アイシェの場合： 私の人生は大きく 変わりました

ヘブロンから離れた貧しい辺境地デイルアルアサル（Deir Al 'Asal）で行われた意識向上のための巡回講習会で、ある女性の参加者がIPPFパレスチナ（PFPPA）のソーシャルワーカーに、友人たちを是非訪問してくれないかと依頼してきた。その女性によると、二人の友人には小さな子どもが6人もいて講習会に参加できないとのことである。そこで巡回チームがその二人の若い女性を訪ねた。二人とも無職で、いずれも同じ26歳の男性の妻であった。

このソーシャルワーカーは、女性二人ともが夫から虐待を受けており、その女性の一人名であるアイシェの息子は、未熟児で生まれ水頭症を患っていることを理解した。アイシェは二回目の妊娠が分かったときには、産まれてくる子どもが同じ難病を患っているかもしれないと思い、人工妊娠中絶を受けたと語った。彼女に妊娠中絶を施した医師は、彼女の身体の問題については何も知らず、経過観察もなく投薬を行った。アイシェは出血がひどかったが、フォローアップのために婦人科に行くことをためらっていた。そこで巡回チームは、アイシェが家族計画のカウンセリングとサービスを受けることができるように、ヘブロンにあるIPPFパレスチナ（PFPPA）のサービス提供拠点に取次いだ。そしてアイシェの夫も同行するようにと要求し、夫婦で家庭内暴力など様々なセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルス／ライツの問題についてカウンセリングを行った。それから数カ月後、IPPFパレスチナ（PFPPA）のチームがフォローアップで訪問した際、アイシェはリラックスし心にゆとりができた様子だった。アイシェは家族計画の選択肢について新しい情報を得ることで自分にも権限が与えられたと感じるようになり、夫もその選択肢を利用することに同意していた。アイシェと彼女の友人たちは、

IPPF日本信託基金プロジェクトの熱心な支援者として、自宅で、隣人を対象とした情報共有のための小さな集会を開き、IPPFパレスチナ（PFPPA）の巡回チームにも参加を呼びかけた。アイシェによると「みんな、家族計画の選択肢がたくさんあることを知らなくてはいけません。そうすれば生活がずっと楽になり、自分の身体を管理しやすくなります。私も今では、どのように自分を労わればいいのか分かるようになりました。そして（女性としての）権利をどうやって守ればよいのかも知っています。私の人生は変わりました。」

将来への展望

IPPFパレスチナ（PFPPA）は、地域を拠点とするセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルス／ライツの主導的な組織として、地方自治体やNGOと協力しこのプロジェクトを実施した。IPPF日本信託基金プロジェクトは、母子保健とリプロダクティブ・ヘルスに取り組んでいる保健省、母子保健ナショナル・コミティー、地方自治体、保健機関、村落自治体、女性センター、青少年センター、保育園、他のNGOなど、政府、非政府団体の代表者を含むステークホルダーたちからなるネットワークから支援を受けて推進され、プロジェクトの様々な段階で、各団体とパートナーとして活動した。このように協調しながら活動することで、IPPFパレスチナ（PFPPA）は、他の組織が提供するサービスについても勧めることができる。

HIVの母子感染や性感染症のカウンセリングのような統合的な母子保健サービスを提供するため、IPPFパレスチナ（PFPPA）のサービス提供拠点と巡回診療の能力が拡充された。それにより、これらのサービスがセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルスサービスの標準パッケージに含まれることになる。劇団員の有志たちも、新たな資金供給が確定し、地域の動員のため西岸地区で活動を続け、青少年への総合的な性教育を実施していくことだろう。

写真

1. 男性を対象としたリプロダクティブ・ヘルスに関する情報提供の様子。
2. 母子保健に関する情報提供の様子。
3. 子どもの健康に関する情報提供の様子。

IPPFパレスチナ（PFPPA）
Wafaa Abu Hashish/ガザ/2010

国際家族計画連盟
（IPPF）
4 Newhams Row, London
SE1 3UX
電話
+44 20 7939 8200
Eメール
SMapa@ippf.org
www.ippf.org
英国登録慈善事業
No.229476

IPPFパレスチナ
（PFPPA）
Industrial Zone –
Wadi Al-Joze
Jerusalem
Palestine
Tel +9722-6280630 /
9722-6283636
Email pd@pfppa.org
www.pfppa.org

参考文献

パレスチナに関する情報の出典： UNICEF, 2010 http://www.unicef.org/infobycountry/oPt_statistics.html
パレスチナ中央統計局ウェブサイト <http://www.pcbs.gov.ps/default.aspx>
国連人道問題調整部UNOCHAによる連結アピール, <http://unocha.org/cap/>



From
the People of Japan

IPPF日本HIV/リプロダクティブ・ヘルス日本信託基金は、発展途上国における女性、若者、そしてHIV対策の鍵となるグループの人々がHIVおよびセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルス関連のサービスを受けやすくするために2000年に日本政府により設立された。設立以来、49カ国で121以上のプロジェクトを支援している。